

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	えがおの広場（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日 ～ 令和7年3月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	令和7年3月15日 ～ 令和7年3月22日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	知育玩具や絵カードなどを用い、こどものニーズやコミュニケーション能力の向上を図るなど、楽しみながら学べる支援をしている。	こどもに気づきを与え、自発的に行動できるよう促し、友達や職員とのかかわりの中で多くの場面を経験し成長していけるよう支援している。	学校・家庭・事業所が一体となり方向性を同じくすることでこどもが安心して穏やかに活動できるよう連携を図っていく。
2	こどもの活動では、視覚支援や環境設定により時間や活動場所を分かりやすくするため構造化を取り入れている。	活動の中で絵カードや表情カードを使い活動の流れを視覚的にもわかりやすく提示している。また、ルールやマナー面についても視覚的な掲示物を用いて伝えている。 荷物を入れる場所にはこども一人一人の顔写真を掲示し、自分の場所がわかるように工夫している。	こどもの成長に応じてアセスメントし、個々に合った支援ができるよう活動内容を工夫していく。
3	個別活動と集団活動を組み合わせや異年齢児との交流取り入れた支援計画を策定している。	活動場面の目標を職員が共通理解して支援を行い、事前に打ち合わせを行ってからサービス提供ができるよう努めている。 系列の事業所との交流を積極的に行い、異年齢のこどもと関わる場面を意識的に設定している。	こどもの成長に応じてアセスメントし、調整や計画を行っていき、実態に合った支援ができるよう活動への参加のしかたを検討する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもの特性や職員との相性もあって担当制になっているが、それ以外の場合によってはこどもに不安感が見られる。	担当している職員がいないとき、他の職員が担当するとこどもの不安感が伝わる。	チームとしてオールマイティーにかかわれるようこどもと職員の入れ替えも必要である。
2	保護者との交流や保護者会の参加が低迷している。	コロナ禍以降、保護者との交流や行事への参加が減っている。 保護者会に出席する方がいつも同じメンバーになっている。	参加者が増えるよう協力を呼び掛けたり、参加してみたくなるような企画について役員と相談していく。 以前実施していた「かがやき集会」を踏まえ、交流の機会を検討する。
3	業務の効率化や働き方改革の必要性を感じる。	報酬改定やガイドライン等の改定によりやるべきこと、事務的な業務が増え、こどもとかかわる時間や心の余裕が減ってきている。	さらなる業務のデジタル化や、放課後等デイサービスに特化した業務用ソフトの導入を検討している。